

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第217号(2025. 3. 1)
事務局 川西地区自主防災会

さぬき市鴨部地区自主防災会の活動

鴨部地区自主防災会
会 長 福山 武

はじめに

さぬき市鴨部地区は、旧志度町東部の約570世帯・人口千七百人程の純農村地域です。地区内には県下の主要河川の1つである二級河川鴨部川が貫流しており、周辺山腹の土砂災害とともに河川氾濫、地震時の液状化による被害が想定されます。

地区内には28単位自治会があり、その住民を構成員とした自主防災会が組織されており、毎年防災訓練等を実施しています。本稿では、令和6年度に行われた「安否確認訓練」と「防災セミナー」について報告します。

安否確認訓練

30年以内の発生確率が「70～80%」から「80%程度」に引き上げられた南海トラフ巨大地震対策として、近所の人達と助け合う「共助」による取り組みが大切です。

被災直後に無事であることを知らせる安否確認用グッズとしてはタオルやタスキ等を他人が見やすいように玄関先に掲げる方法がよくみられます。タオル等ではいざ必要な時に紛失の恐れがあるので、当地区ではA4判の黄色い台紙に「SAFE 無事です」と印刷し、水濡れに対応したパウチ加工を施したものを地区内の業者に発注しました。一枚当たり115円です。これを全世帯(570世帯)に配布し、訓練後も玄関付近に常備してもらうこととしました。



安否確認訓練の要領は次のとおりです。

令和6年度防災訓練(安否確認訓練)実施要領

日 時	令和6年12月15日(日) 午前9時より
趣 旨	令和6年1月に石川県で震度7を観測した能登半島地震が発生した。8月には日向灘を震源とする震度6弱の地震を受け、南海トラフ巨大地震の発生可能性がたかまった場合にでる「臨時情報」が初めて発表された。これまでになく南海トラフ巨大地震への危機感が高まっている。 巨大地震が発生した場合に、地域の防災意識(共助)の一層の高揚を図り、また、地域の連携強化を図るために安否確認訓練を実施する。
被害想定	午前8時50分に四国沖を震源地とするマグニチュード8の南海トラフ地震が発生し、市内で最大震度6強の揺れを観測した。この地震に伴い、地区内の家屋の倒壊や液状化による損壊、火災の発生などの被害を受けたことが予想される。
訓練内容	午前9時のサイレン吹鳴を合図に、自治会の防災責任は各世帯の安否の確認を行い、公民館に参集(10時30分までに)し状況を報告する。 実施者の安全を確保するため出来る限り徒歩にて行い、人数及び確認に要する。 公民館に参集した人は、鴨部地区自主防災会が管理保有している防災機器材の展示及び操作訓練説明をうけるとともに、炊き出しの試食後解散する。

✂.....切り取り線.....

安否確認訓練報告書

自治会名

世帯数

所要時間

以上

訓練後の報告では、各自治会の世帯数に大小があり安否確認に要する時間は30分から1時間程度であった。また、サイレン吹鳴が聞こえなかったとの報告が多々あった。



訓練に伴い購入した簡易トイレとテント



毛布による簡易担架搬送訓



発電機及びチェーンソー等の操作訓練



防災セミナー

鴨部地区自主防災会主催の防災セミナーを、去る2月15日（土）に開催しました。テーマは「地区防災計画の策定」とし、講師は防災アドバイザーでもある香川大学の磯打千雅子特命准教授にお願いしました。参加者は各自治会の防災責任者及び防災会メンバーの36名でした。

地区防災計画は、地域の特徴を生かした支えあいの仕組みづくりであり、住民と関係機関との連携が目的であり、計画書として文書にして配る（共有）こともできます。先進地区の事例をまじえながらその取り組みにおける注意事項などをご講演いただきました。今後、鴨部地区においても計画策定に取り組んでいきたいと考えています。

鴨部防災セミナー

日時：令和7年2月15日（土）
13:30～15:00

場所：鴨部公民館大会議室

「地区防災計画の策定」

講師：磯打千雅子氏 香川大学地域強靱化研究センター特命准教授
岐阜県生まれ。香川大学博士（工学）、香川大学危機管理
研究センター特命准教授を経て現職。
専門分野は、地域防災、危機管理、事業継続計画（BCP）
地域継続計画（DCP）、香川県防災会議委員、内閣府西
土強靱化推進会議委員、内閣府地区防災計画制度有識者
懇談会委員、地区防災計画学会理事等。

